

<b>単元名:ペルーから学ぶ“アリノメ、トリノメ”</b>		
氏名:田端 浩多	学校名:天理市立朝和小学校	
担当教科:外国語	実践教科:総合的な学習の時間	
時間数:4時間	対象学年:6年生	人数:75人

**【実施概要】**

<b>【1】単元のテーマ・目標</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ペルーと日本と比べることをとおして、それぞれの国のよさや課題を知り、背景を探ろうとする。</li> <li>自分や友達を、背景を意識して見ることで、人間理解の素地や、自尊感情を育む。</li> </ul>		
<b>【2】 単元の評価 規準</b>	(ア) 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペルーや日本の、今日的な課題について知っている。</li> <li>自分や友達の良さや課題を見つけることができる。</li> </ul>
	(イ) 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペルーや日本の良さや課題の背景について、理由をもって考え、表現することができる。</li> <li>自分や友達の背景に目を向け、良さや課題を見つけることができる。</li> </ul>
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペルーや日本の良さや課題を主体的に見つけ、それに対して思いをもつことができる。</li> <li>自分や友達の良さや課題を主体的に見つけようとしている。</li> </ul>
<b>【3】 単元設定の理由</b>	<p>授業者が本実践で期待すること、それは「他国について知り、自分が生活している国と比較するなかで、それぞれの国のことを好きになったり、眼差しを柔らかくしたりすること」である。そのことは、人と人が手を取り合うことを助け、世界平和へとつながっていくものであると信じている。</p> <p>もちろん、どんな国にも良さがあれば、課題もあることだろう。それは当然のことである。そこから目を背け、良さばかりを取り上げる方が、盲信的で薄い視点を育てることになってしまう。だからこそ、「どんな国にも良さと課題の両方があり、それも含めて仲間である」という意識を、子どもたちのなかに醸成させたいと考える。</p> <p>ただしそれは、そう簡単にいくものではない。例えば普段、子どもたちから発せられる言葉のなかに、「日本は遅れている・韓国の方がお洒落だ・アメリカの方が進んでいる」といった、自分たちの国に誇りを感じていないような発言を聞くことがある。また、「俺の親は中国が嫌いやから、〇〇(中国メニュー)のメニューは食べたくない・アフリカみたいな不便なところで生活できへん」といった、他国を蔑み、優劣をつけた発言を聞いたこともある。そうした感覚は、物事を一面的にしか見ていないから生まれるものであるのだろうが、マイクロアグレッションとして、日常の根底に流れているのだろう。</p> <p>「どんな国にも良さと課題の両方があり、それも含めて仲間である」という意識を醸成させるために、まずは子どもたちがそれぞれの国に抱いているイメージを受け入れるところから始めたい。なかには、「文化が理解できない・国民性が苦手だ」というように、マイナス感情もあるかもしれないが、そうした感情こそ受け止めていきたい。学習を進めるにつれて、子どもたちは、文化や国民性・起きている事象には、歴史や宗教といった『背景』が関わっていることに気付いていこう。そして、「苦手」が「興味」に変わる瞬間があるのではないかと考える。それに期待したい。ただし、国民性は画一的なものではなく、あくまで人を見る視点の一つなので、子どもたちには「〇〇人はこうである」という誤解を与えないように留意したい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 児童/生徒観</li> <li>✓ 教材観</li> <li>✓ 指導観</li> <li>✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容</li> </ul>		

本実践で、授業者はペルーという国を扱う。教師海外研修でペルーに出発する前、担当する子どもたちにそのことを伝えた。すると子どもたちは、ペルーの子たちにスペイン語で手紙を書いていた。帰国後、子どもたちは手紙の返事を見て、喜んでいた。ペルーが、少し身近な国になったように感じた。そんなペルーにも、国としての良さや課題がある。普段、子どもたちの会話にはあまり挙がらない国だからこそ、フラットにそれを感じられるのではないかと考えている。

さて、「物事には背景がある」という考えを得た後は、子どもたちがそれを、普段の関わりに生かせるよう、手助けをしていきたい。小学校の六年間をともに過ごしてきた子どもたちは、幼いころに抱いた同級生へのイメージを、良くも悪くも固定させている。なかには、「この子は会話が通じないから苦手だ・この子は教室に入れられないから関わりづらい」といったマイナスイメージもある。それ自体にも物事の『背景』はあるのだが、イメージから排除が生じる可能性をしばしば感じ、怖くなることもある。行動の『背景』、現状の『背景』に目を向け、想像力を働かせることができるなら、マイナスイメージも和らぐのかもしれない。

さらに、他者の『背景』に目を向けることができたなら、自分自身にも意識が向くのではないかと思う。自分の良さや課題について知り、自身のアイデンティティを探すなかで、国と同様、「他者について知り、他者と自分とを比較するなかで、それぞれを好きになったり、眼差しを柔らかくしたり」し、「みんなに良さや課題の両方があり、それも含めて仲間である」という考えに辿り着いて欲しい。そしていつの日か、世界の中で低いとされる、日本人の自尊感情を高めることにつながって欲しい。そんな願いを、この実践に込めた。

最後に、今後の展望について記述する。ペルーに関する実践が終わった後は、JICAと連携のもと、エジプトの小学校と国際理解教育の実践を行う。ペルーに関わる実践では、小学生同士でオンライン交流は行わないが、出前講座では、小学生同士のオンライン交流をする予定である。ペルーに関わる実践が「人を見る視点の素地をつくる」がテーマだとしたら、出前講座は「その視点を活用して実際に交流する」がテーマである。エジプトの実践では、より「個人」を見ることを意識した実践を展開したい。例えば、相手の顔や名前、価値観が分かるような内容である。このことにより、「○○人」という一つの見方を用いながらも、人は一人一人異なっているというメッセージを伝えていきたい。二つの機会が活用しながら、子どもたちに、人と理解し合えるかもしれないという期待感や、世界中に“友達”ができる可能性を感じさせたい。

【4】展開計画(全4時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 本時	ペルーの良さを 知り、課題について 考えよう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペルークイズや文化紹介で、学習への意欲をもたせる。また、日系人との写真を見せ、「日本人のように見えるがペルー人である」という驚きとともに、日系の歴史にも目を向ける。</li> <li>ペルーで訪問したフェアレグリア33小学校の全校集会の動画を見せ、日本との違いについて考えを深める。</li> <li>ペルーへのプラスの感情を醸成させた上で、4000という数字を示し、スマートフォンが1日に盗まれる数だということ伝える。</li> <li>上記の理由について、「なぜ?」という問いとともに、背景を考える。</li> <li>写真(物乞い・車の停車中に断りもなく洗車され、一方的にお金を請求される様子・バラック)を見せ、ベネズエラからの移民問題や貧困、格差社会といった複合的な理由があることを知る。</li> <li>また、地図や写真(リマとカヤオ)を見せ、地区によって状況が違ふことを知る。一例として、“海辺”は、外部と繋がりがやすく、だからこそ麻薬が蔓延していたり、マフィアが多いとされたりするという話があることを伝える。</li> </ul>	Keynote ワークシート 世界地図 ペルーの民芸品

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「○○人だから…」というように人を見るのではなく、様々な出来事には、歴史や宗教的な背景があり、それが深く関わっていることを知る。</li> <li>・良さや課題は、日本にもあるということに目を向ける。</li> </ul>	
2	日本の良さを知り、課題について考えよう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の学習内容をふり返り、一つの国を「良さと課題」の両面から見ることや、そこには様々な背景が関わっていることを思い起こす。その上で、ペルーの良さと課題について、整理する。</li> <li>・「日本は安全だ」という児童のふり返りを紹介した後、「それでも日本に来て、“帰りたい・住みにくい”と感じる外国人がいるのだ」という例を紹介し、日本という国を「良さと課題」の両面から見る視点を与える。</li> <li>・日本を「国民性」の視点から分析することを伝える。そして、TVドラマ「VIVANT」で、ドラマの中に登場する外国人が、「日本人は他者を重んじ尊重する」と表現している画像を見せ、日本人とは一般的にどのような民族だと言われているかを予想させる(シャイ・時間を守る・同調主義などが出たろうと予測)。その上で、良さと課題について考えをもつ。</li> <li>・ペルーと同じように、日本も地区によつての違いはあるのかということに目を向けさせ、部落問題やアイヌ民族、琉球王国についても紹介する。</li> <li>・次に、日本を「学校教育」の視点から分析することを伝える。自分たちは学校が好きかどうかを考えた後に、その理由を考える。その後、日本の5Sの考えをもとに学校運営をしているペルーの日系校「ホセ・ガルベス校」を紹介し、良さと課題の両面から、日本の学校を捉え直す。</li> </ul>	Keynote ワークシート 世界地図
3	相手の「良さと課題」を、背景をとおして見てみよう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と性格が合う友達、合わない友達を思い浮かべさせ、その理由を考えさせる。性格には背景があるとともに、それは多面的であるということ伝える。</li> <li>・人と上手くいかなかった経験から、「性格診断」を用いたことのある児童のことを例に取り上げ、人のアイデンティティを捉えるルーツについて考え、行動や性質には『背景』があることを知る。</li> <li>・人を形づくるアイデンティティの要素を探る。 (例:障害、性差、いじめの経験、趣味、習い事など)</li> <li>・相手の理解できなかった行動、相手の賞賛できる行動について、相手の気持ちや背景を考える。そのことが、相手を捉え直しているということだということを知らせる。</li> <li>・相手を通して自分を見ると、自分も捉え直せることに気づく。</li> </ul>	Keynote ワークシート
4	自分の「良さと課題」を、背景をとおして見よう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の経験を思い起こさせ、アイデンティティを形づくっている要素について思い出す。</li> <li>・トラブルの一例を挙げ、それが起こった時の自分の判断は、価値観によるものであると確認する。その後、自分を形づくっている要素について考える。</li> <li>・自分の好きな部分、嫌いな部分を思い浮かべさせ、その理由を考えさせる。</li> <li>・自分の行動も『背景』が関わっていることに気づき、経験とともにそれは変わることを知る。そのことで、これから自分の考え方や人生が変わっていきたり、変えていけたりする可能性があることに気づく。</li> <li>・相手にも自分にも良さや課題があり、それらは必ずしも受け入れられるものではないが、それを含めて仲間だという意識をもたせる。</li> <li>・今自分のことが嫌いだとしてみてもそれ自体は拒まれるべきではないこと、ただし未来に自分のことを好きになれる可能性があることを伝え、単元を終える。</li> </ul>	Keynote ワークシート

【5】第1時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (15分)	①ペルーの位置や文化、歴史などを紹介したスライドを見せたり、子どもたちのペルーへのイメージを聞いたりして、ペルーについて興味をもたせる。	・授業者がペルーで訪れた場所や驚いたことなど、実際の経験を紹介し、ワクワク感をもって話を進められるようにする。	・世界地図 ・ペルーの民芸品 ・Keynote
展開 (10分)	②「4000」という数字を見せ、これが何を表しているのかを個人で考える。  ③その答えが「ペルーで1日に盗まれるスマートフォンの数」だということを聞く。そして、それに対して思ったことをグループでシェアし、その理由を考える。	・誘導にならないように、どんな意見も受け止められるようにする。  ・4000台という数について、子どもたちがもつ感想は、教師の言葉によって狭められないよう注意する。	
まとめ (10分)	④背景として、「ベネズエラ移民・貧困の差」など、様々な要素が絡んでいることを知る。  ⑤それぞれの国、様々なものには、良さや課題があり、またそれには背景が絡んでいるという視点をもとに、ペルーや日本という国を捉え直す。  ⑥感想や学んだことをシェアし、次時に対する期待感をもたせる。	・事実を多面的に見られるように、子どもたちがイメージをもつための余白を意識した語りをする。  ・教師の伝えた内容が全てではなく、物事は見方により変わっていくことを知らせる。	
【授業実践の様子】			
<p>《①の場面》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペルーのイメージを子どもたちに聞いたとき、「ペルーは草むらが多そう。」「寒そうなイメージがある。」などの発言があった。ペルーのことはあまり知らない印象を受けた。</li> <li>・訪れたスーパーで大量のジャガイモが陳列されていたり、商店で鳥が捌かれていたりする動画を見せたとき、「ジャガイモ多すぎやろ!」「野蛮な感じがする。」という声があがった一方で、「日本でマグロの解体ショーがあるみたいに、外国ではこれが当たり前なのかもしれない。」といった文化のちがいに目を向けている発言もあった。また、「トウモロコシのジュースを飲んでみたい。」「美味しそうな料理を食べてみたい。」といった、食文化に注目した発言もあった。</li> </ul>			

## 《②の場面》

・4000という数についてグループで考えたとき、子どもたちからは「1年間に来る台風の数」「民族の数」などの発言があった。マイナスイメージの発言をしたグループはいなかった。

## 《③の場面》

・「1日に盗まれるスマートフォンの数」だということを聞いて、子どもたちは驚いた表情を浮かべ、どよめいていた。グループで感想をシェアする場面では、「食べ物がおいしくて行きたいと思ったけど、行きたくないと思ってしまった。」「とにかくびっくりした。」と、戸惑っている様子が窺えた。

## 《④の場面》

・1日に4000台ものスマートフォンが盗まれる背景には様々な要素が絡んでいることを伝えたとき、子どもたちは、「日本では当たり前なのが、外国ではそうではないから、自分たちがいるところはいいところなんだと思った。」「貧困の差がこんなにもあるなんて思わなかった。」という発言があった。

## 《⑤・⑥の場面》

・授業時間の関係から、⑤・⑥は同時に感想を共有することにした。子どもたちからは、「ペルーは怖い国でもあるし、いい国でもあると思った。」「『えっ』と思うこともあれば、『すごいな』と思うこともあって、いろんな国のことを知るの楽しいと思った。」「ペルーだけではなくて、他の国や日本にも欠けているところがあると思う。」「国によって常識がちがうということを、初めて実感した。」といった意見があった。

## 【6】本時の振り返り

本時において、最も子どもたちの興味をひいたのは、「ペルーでは、1日に4000台ものスマートフォンが盗まれる」ということを知った場面である。授業終了後も、たびたび話題になっていた。ただし、学級のほとんどの児童が、ペルーについて怖いというイメージをもってしまったようだった（「ペルーは怖いから、ずっと日本でいたい。」と言っていた子どもがいたため、「みんなはペルーのこと怖いと思う？あまり行きたくない？」と聞いたら、ほとんどの子どもたちが手を挙げた。）。

とは言うものの、教師海外研修に参加した教員集団のなかにも、出発前は「無事に帰って来られるかな。」「怖くなってきた。」と話す人はいた。大人でもそうなのだから、子どもたちの反応は当然であると言える。今後、「日本・友達・自分」の背景を扱うにつれて、そのイメージが変化するのか、はたまたしないのかを、注意深く見守っていこうと考えていた。

本単元については、子どもたちは楽しみにしているようで、「次はどんなことを勉強するの。」「ペルーのこと家で調べてきた。」と興味が継続している様子が窺えた。

## 【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

## 【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

子どもたちのふり返りからは、背景を意識することによって、人間関係を調整したり、イメージを見直したり、自身の内面を探ったりしていることが読み取れた。以下、ふり返りの内容を示す。

- ・改めて自分を見直すと、嫌なところや面白いと感じるところが出てきて、「こんなところあったのか…」となりました。ペルーの授業で学んだように、「背景」をキーワードにして、「なぜこうなったのかな」と自分なりに考えることで、「絶対こうだ!」とか「そんなはずない」などの決めつけが減り、「たしかにありえるかも」が6-2でも増えた気がしました。
- ・このペルーの授業で、いろんな人への接し方や印象が変わって、けっこう面白かった。
- ・このペルーの授業がなかったら、絶対に自分のことを考える機会なんてなかったと思う。だからペルーの授業をしてよかったと思うし、他の国にも興味をもてたからよかった。
- ・背景のことを学び、自分のことを考えると、良さはあまり、頭の中に浮かんでこなかった。課題はすぐに出てくるが、良さは、恥ずかしいとかではなく、普通にでてこなかった。背景を考えるのは、少し難しかったけれど、考えたときに改めて、「昔のできごとが原因で、今の自分・性格を生み出したんだな」と思った。今はあまり人を信用しないようにすることによって、あまりウソに引っかかりにくくなった。
- ・ペルーの授業をとおして、他の国にも色々な背景があるんだと知れたし、自分はこういう人だったんだみたいな、自分を見直したきっかけになったと思う。
- ・この勉強で自分のことを深く知れて、いい機会になりました。また、何年後かに同じことを考えてみると、「面白いだろうな」と思いました。
- ・ペルーはあまり聞かない国だったけど、授業を受けていろんなことを知った。これから人へと接し方を変えたいと思いました。

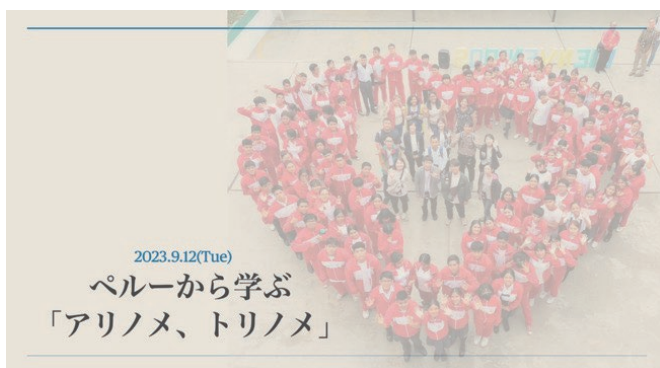
#### 【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

子どもたちのふり返しからは、他国へ興味をもてたり、決めつけずに関わっていく態度を備えたりしていることが読み取れた。以下、ふり返りの内容を示す。

- ・最初はペルーに行きたくないと考えていたけど、ベネズエラ問題もあって、実際行ったら面白いんだろうなと思いました。
- ・ペルーの印象は、授業を受けるまではいい方だったけれど、1回目の授業のときに、10%くらいまで下がってしまった。けれど、背景があることを知って、その背景を深掘りするのが楽しかった。今はペルーにいきたいです。
- ・ペルーの授業の初めは、1日にスマホが4000台盗まれたり、勝手にバスなどをふいたのにお金をせびられたりして、怖い国なんだと思ったけど、それにも背景があって納得した。
- ・このペルーについての授業で、他の国にも興味をもった。いざ他の国について知ってみると、日本と環境や色々なことがちがっておどろいた。この授業で、いろいろなことに興味をもてたり、新しいことを知ったりできた。何にも背景というものがあることに気づいた。
- ・ペルーみたいに美食、めずらしいものが売られているのに、あまり知られていない国があるんだなと思った。ベネズエラは貧困が多く、もしぼくがここに生まれついていれば、すごくしんどかったのかもしれない。
- ・ペルーという国では、ちょっと前まで銃撃戦があったところがあったなんて、すごく怖いです。でも、ペルーにはおいしい食べ物があるんだなとも思いました。いろんなことを知れました。

【8】自己評価	
1. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時において、『1つの国には、良さと課題の両方がある』ということ伝えるために、ペルーの良さ(美食の国、歴史的な遺跡があることなど)を紹介した後、課題となる「1日に4000台のスマホが盗まれる」ということを取り上げた。子どもたちは、かなりショックを受けていたようだった。子どもたちのイメージが、そこから離れなくなってしまうのか不安だった。</li> <li>・第2時目の授業実践が最も苦労した。外国に行った経験のない児童がほとんどで、他国との比較ができないなか、日本の良さや課題について考えるのは難しかった。次回より、レディネスの把握は必要不可欠である。</li> </ul>
2. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの実態から組み立てた授業であるため、状況により切り口は変わってくるだろうと思う。例えば、国際理解教育が十分になされ、背景を探ることに慣れている集団であるならば、より高度な目標が設定できることだろう。</li> <li>・対して、人権感覚が十分に醸成されていなかったり、落ち着いて考えることが難しかったりする集団であるならば、授業においてその国の良さと課題を出すことが、差別心を生むことにつながらないか考える必要がある。</li> </ul>
3. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達関係において、「理解できないけど、頑張っている。」「何か理由があるのかもしれない。」といった、背景に目を向けた発言が増えた。子どもたちの視野が広がったのではないかと考える。</li> <li>・本単元終了後に、広島県に修学旅行に行った。修学旅行では平和学習を行い、日本がかつて経験した戦争について触れるのだが、その際に「背景はあるけれど、命が奪われるのはいけないことだ。」というふり返りがあった。背景を理解したうえで、許されない行為もあるという、一つ踏み込んだ視点に進めた子どもがいたことは大きな成果である。</li> </ul>

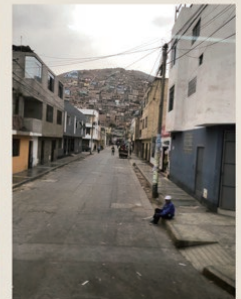
添付資料：(作成したKeynoteより)



## ベネズエラ移民問題



## 貧困差～市街地から30分離れると～



### 参考資料:

- ・犯罪発生情報(年計)警視庁

<https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp>

(参照日2023年9月12日)

- ・スマホ盗難大国ペルー1日平均4753台

<https://www.keikoharada.com/blog/2023/07/robo-de-celulares.html?amp#more-52745>

(参照日2023年9月12日)

- ・Crime in Peru: More than 140,000 cell phones were reported stolen in March

<https://www.infobae.com/en/2022/04/17/crime-in-peru-more-than-140000-cell-phones-were-reported-stolen-in-maech/>

(参照日2023年9月12日)